

祝 令和6年度ながさき農林業大賞受賞者の紹介

令和6年11月16日（土）、長崎市内において、「令和6年度ながさき農林業大賞」の表彰式が行われました。この賞は、県内各地で地域の特性を活かしながら魅力ある農林業経営を展開している優れた農林業者を表彰するもので、県央振興局管内からは、5経営体4組織が受賞されました。

受賞された皆様おめでとうございます。
今後ますますのご活躍を祈念いたします。



長崎県知事賞

トップファーマー(露地野菜部門)

高浦 勝宏さん・京子さん（西海市）

【経営概況】

ゆでぼし大根 550a

すいか、かぼちゃ他 807a

【主な受賞理由】

- ▶ ゆでぼし大根を基軸としたすいか、かぼちゃ、ばれいしょ、千切り大根など露地野菜を組み合わせた営農体系を確立している。
- ▶ 適正な雇用労力の確保及び省力機械の活用により、高い労働生産性と規模拡大を実践し、ゆでぼし大根の作付面積は県内トップクラスを誇る。
- ▶ 長崎西彼農協ゆでぼし大根部会長を務めており、西海市の特産品であるゆでぼし大根産地の維持発展のため、高品質生産とあわせて、県内外での販促活動やメディア等でのPR、食育活動にも積極的に取り組んでいる。また、すいかについても「面高すいか」としてブランドを確立し、生産・販売を行っている。
- ▶ 農業体験の受入や遊休農地の解消、地域整備活動、また面高地域捕獲隊長として鳥獣被害対策に努めるなど地域農業にも貢献している。



トップファーマー(果樹部門)

谷川 義浩さん・和美さん（長与町）

【経営概況】

柑 橘 261a

施設いちじく 10a

【主な受賞理由】

- ▶ 自宅周辺に園地を集約し、約7割の園地での園内道整備や、軽トラックが活用できるよう小規模基盤整備を実施し、省力化に努めるとともに、生産性が高い20年生以下の樹齢構成の園地が半分以上を占めるなど、計画的な改植を行うことで県平均よりも約10ポイント高い生果率（91%）を実現している。
- ▶ 平成17年、畑かん整備後にマルチ被覆とかん水施設を一体化したマルドリ栽培を導入。現在、豚ぼん堆肥ペレット混合肥料の試験導入や、スマート農業現地実証プロジェクト（令和3年～4年度）への参画など先進的な取組を行っている。
- ▶ 長与町認定農業者会長、長崎県JA果樹研究会副会長、JA長崎せいひ柑橘部会長等の数多くの役職を務められ、地域リーダーとして地域農業および本県の果樹産地振興に大きく貢献している。



トップファーマー(特産部門)

福田 新也さん(東彼杵町)

【経営概況】

茶 820a
水稲 35a



【主な受賞理由】

- ▶ 新品種「つゆひかり」、「さえあかり」など優良品種への改植を積極的に進め、早生品種から晩生品種まで幅広く植栽し、分散化による適期摘採を実践している。また、高い製茶技術により、安定した高品質茶の生産を長年実施しており、茶商から極めて高い評価を得ている。
- ▶ 地道な土づくりときめ細やかな茶園管理が評価され、県茶園共進会では、常に上位入賞し地域の茶栽培の模範となっている。さらに、全国茶品評会でも常に上位入賞し、平成30年度には日本一となる農林水産大臣賞を受賞するなど、自らの茶のみならず「そのぎ茶ブランド」の全国認知度の向上・確立に貢献している。
- ▶ 地域の若手生産者とともに、海外での需要が高まっている「抹茶」の輸出に向けた取組を先導し、国の事業を活用し、てん茶機械の導入並びにアメリカやオランダでのプロモーション活動を積極的に行い、海外への販路を開拓したことで、福田氏の出荷先である(株) FORTHEESは県内トップクラスの茶の輸出事業体へ成長している。

トップファーマー(林産部門)

株式会社 長崎林業(諫早市)

【経営概況】

木材生産面積 260.8ha



【主な受賞理由】

- ▶ 県内の民間林業事業体の中で最も木材生産量が多く、高性能林業機械の保有台数や従業員の数もトップクラスであり、現場作業の進捗管理、課題分析に基づく改善を重ね、生産性向上につなげている。このような取組により、生産量は5年前より1.5倍と飛躍的に増加している。
- ▶ 森林整備がまだ保育中心であった約20年前から、全国的に先駆けて木材搬出のための作業道の技術者育成に力を入れ、作業道技術者として県内で唯一、路網作設オペレーター上級指導者に認定されている。また、全国各地で開催される森林作業道研修での指導実績も多く、県内外の技術者育成にも貢献している。
- ▶ 県の施策等の方向性の検討や取組推進のために組織している各種委員会等においても、林業事業体の代表的な立場としての助言を行うなど、県の林業推進活動への協力や魅力ある林業経営の実践が、他の模範となっている。

いきいきファーム(産地集団部門)

長崎県中央農業協同組合(諫早市)
東部ハウスゴーヤー部会

【組織の概要】

構成員数 32人
産地規模 5.2ha



【主な受賞理由】

- ▶部会員数32人、1部会員あたりの平均作付規模は16.2aで、アスパラガスの転換品目として「にがうり」の新産地を確立するとともに、部会員の農業経営の維持発展が図られている。
- ▶新規就農者を積極的に受け入れるとともに、就農にあたっては、部会による住居や遊休ハウスの斡旋、事業を活用したハウス建設など初期投資を抑えることで栽培に取り組みやすい環境を整え、前身の研究会発足から7年で販売額1億円規模の産地まで拡大し、他産地の模範となっている。
- ▶労力面では、8年前から農福連携に取り組み、農作業の一部を福祉事業所に外部化することで省力化につながっている。また、学校給食への食材提供を通じて「食育」にも取り組んでいる。

げんきビレッジ(農山村地域保全部門)

幻の高来そば振興協議会(諫早市)

【組織の概要】

構成員数 48人



【主な受賞理由】

- ▶地域資源であるそばの在来種を保全する体制を確立するとともに、休耕地や耕作放棄地、干陸地を活用したそば産地の拡大を通じ、農山村の持つ多面的機能の維持、地域の環境保全に大きく寄与している。
- ▶そばの栽培面では、高畝栽培や排水対策、イノシシ被害対策等を積極的に取り組むことで、令和5年産の平均単収は全国平均の2倍と全国トップクラスの実績を上げている。
- ▶クラウドファンディングを活用して高来そばの食事処を整備するとともに、協議会が主体となった企画・運営を行う「新そばまつり」やそば打ち体験教室、小学校での食育活動、既存イベントとのコラボ等により、多くの人が郷土食文化に触れる機会を設けるなど、交流人口の拡大による地域活性化にも大きく貢献している。

運営委員長賞

トップファーマー／果樹部門

瀧口 勇さん（川棚町）

【経営概況】

温州みかん（露地、ハウス）245a
中晩柑 30a 水稲 70a

【主な受賞理由】

- ▶ 家族労力による収穫を行うため、露地みかん、ハウスみかん（加温・無加温）、中晩柑を組み合わせた栽培体系とすることで、労力の平準化を実現している。
- ▶ ハウスみかんでは、多重被覆空気層生成機器（モノロードーム）を導入することで重油使用量を削減し、生産コストを低減している。
- ▶ ハウスみかんの単収は3か年平均で7,319kg/10aと、県平均4,638kg/10aと比較し非常に高い。ハウス内に無駄なく植栽して樹冠を拡大させ、適期のせん定、施肥、温度管理等による連年多収生産を実現している。
- ▶ JAながさき県央北部青年部長等に就任し、県央北部地域の担い手代表として活躍している。



トップファーマー／花き部門

森 敏朗さん・千佳子さん（諫早市）

【経営概況】

洋ぎく 66a

【主な受賞理由】

- ▶ 輪ぎく専業経営から、徐々に洋ぎくを導入し、需要構造の変化に対応するため、洋ぎくのための栽培へ転換を行った。
- ▶ 輪ぎく栽培で培った技術を生かし、ヒートポンプの活用による燃油使用量の削減、夜冷とシェード栽培との併用による夏場の収量向上、品質向上を実践している。
- ▶ 全国的組織であるOPTIMUM（ディスプレイ生産者等で組織）にも加わり勉強会、販売促進、産地間連携の模索など地域を越えた活動にも積極的に参加している。
- ▶ 諫早きく生産組合長や花き振興協議会キク部会役員等を務め本県花き振興に貢献している。



トップファーマー／農産部門

農事組合法人 小野島（諫早市）

【経営概況】

大豆 1,870a 大麦 2,570a 小麦 2,700a
裸麦 250a 作業委託（防除）8,500a

【主な受賞理由】

- ▶ ブロックローテーションによる転作大豆と裏作の麦生産、麦の防除作業を受託する集落営農法人である。
- ▶ 大豆の部分浅耕—工程播種技術を栽培の全面積で実施することで、作業の効率化と適期播種が可能となり単収向上を実現している。
- ▶ 地域の集落営農法人との生育状況協議による大豆収穫コンバインの共同利用や所有しているブームスプレーヤーを活用した麦の防除作業受託により、地域全体の省力化及び低コスト化に貢献している。



長崎・西彼地域農業振興協議会長賞

【花き部門】 岩中英樹さん（長崎市）

県央地域農業振興協議会長賞

【施設野菜部門】 田添 康輔さん（大村市）

【畜産部門】 山口 英也さん（東彼杵町）